



ASSOCIATION FOR RENGEIN TANJOJI
INTERNATIONAL COOPERATION.

認定特定非営利活動法人

れんげ国際ボランティア会

みろくの風

Vol
73



「水が出たよ」水設備の完成に大喜び(チベット難民居留地)



- contents -

目次

- 蛇口から水が出た(インド事業) 2・3
インド事業プロジェクトマネージャー 伊藤重剛
- 桃太郎がやって来た(チベット出版事業) 4
事務局長 久家誠司
- 研修センターでの田植えと稲刈りの様子 5
ヤンゴン事務所所長 平野喜幸
- 未来を創る先生たち 6・7
ミャンマー現地駐在員 工藤絢花
- サポートのお願い 8



低い場所しか建てるスペースがないため、高架タイプにした給水塔
(①ダラワリ居留地)



右は古いものをリフォームした水タンク。左は新設のタンク。今年からは夏場の需要期も心配ご無用 (③カムラオ居留地)



このトイレが、住民たちの為に長く使用されることを祈ってオープンセレモニー(②パオンタ居留地)



地域の公共トイレ。コミュニティで管理体制を整え、いつも綺麗に使う事を約束してくれました

2019年4月から、ARTICは同州内にある8カ所のチベット人居留地にて、水・衛生事業として水道管の敷設や、高架水槽、公衆トイレの建設などを行なっています。今回は、その工事の最終点検と引き渡しのために、11月14日〜12月8日という日程で3週間ほど現地を訪れました。

現在インドは大都市から地方の田舎まで全国的な水不足の状態にあります。ヒマラヤの麓の同州でも同じ状況で、チベット亡命政府からの要望に



遠くにそびえるのは雪をたたえたヒマラヤ。その向こうは故郷チベットです

深い谷の向かい側に 水源のあるカムラオ

カムラオは荒涼とした山間部の山の頂に、鳥の巣のように乗っている居留地です。45世帯人口約150人の小さな居留地のため、支援が行き届かず厳しい状況に置かれていました。この一番の問題は、深い谷の向こう側の水源から55年前に引いた3,000m余りの水道管が古くなり、水漏れがひどく、居留地まで十分な水が届かないことでした。季節で少し違いますが、給水は朝夕各1時間です。

チベット居留地での 水・衛生施設支援事業

事業地であるインド北部のヒマチャルプラデシュ州は、ヒマラヤ山脈の南端に連なつた東西に長い州です。

応える形で、ARTICは今回このプロジェクトに取り組みました。

チベット人は、大事な客人を迎える際、薄絹のような白くて長いカタという布を首にかけてくれます。私たちは各地で大歓迎を受け、首が回らなくなるくらい多くのカタをいただきました。居留地の大半のチベット人たちは11月から2月頃までの冬の間、インド各地にセーター売りの行商にでかけるため、今回の訪問時も居留地に残っていたのは高齢の方が多かったですが、私たちを心から歓迎してくれました。

蛇口から水が出た!!
インドのチベット難民居留地での水・衛生事業

インド事業プロジェクトマネージャー 伊藤重剛



今後の管理・運営についてアドバイスする伊藤プロジェクトマネージャー



使用の公平を期すために、インドには珍しい水量メーターを付けました。(⑦BTS居留地)



カーブの部分にはマンホールも使って、スムーズに排水



雨が降ると歩く事さえ困難で道が侵食されていたものを、排水溝を作る事で解決(④ドランジ居留地)



これまで5キロ先から汲んでこなければならなかった水が、今は蛇口をひねるだけで使えることの幸せを語ってくれました



3階建ての2,3階部分に給水タンクを設置したタイプの給水塔(⑧ダルフジー居留地)

雨が降ると、溢れた水で居住区域がえぐられたり、陥没したりしていましたが、もう大丈夫(⑧ダルフジー居留地)



別の居留地ビール・デゲでは、89世帯約300人が暮らしています。ここでは、居留地内の水道管の敷設を行ないました。55年前の居留地建設のとき以来の水道管は老朽化し、水漏れや水圧の低下が起こり、併せて新設住宅への水道管は未敷設でした。したがって、古い水道管を全て撤去し、全ての住戸に充分な水圧で水が届くよう、品質の高い新しい水道管を敷設しました。

工事結果の点検のために住民たちと居留地を歩いていると、一人の高齢の女性がわざわざ私たちに会いにきてくれました。事業前、そのお宅には水道は引いてあったけれども、何年も

重い水汲みから解放された ビール・デゲの高齢の女性

私たちの事業は、谷の斜面に這わせただ水道管の一部約400mを新しい水道管に取り換え、居留地の中の古い水タンクを修理し、さらに新しい水タンクを増設して、水不足を解消することが目的でした。私たちは村人たちと一緒に、転げ落ちそうな谷の急斜面を降りて水道管修理を確認し、また全ての工事の完成を祝して落成の法要と引き渡し式を行いました。

時間給水は相変わらずですが、それでも給水量が増えて何年も前からの懸案がやっと解決しました。法要(落成式)の後の皆の顔は、やっと念願が叶い喜びに輝いていました。



各居留地に新設された設備の側に備えられた看板。日本の国旗、インドの提携団体CUREのロゴマーク、当会のロゴマーク

ARTICでは、今後もどのようにしたらもっといい支援ができるのか、人口減少に直面する居留地の状況をよく考えながら、自己満足に陥ることなく、支援に取り組んでいくつもりです。どうぞ皆様のご支援のほどをよろしくお願いいたします。

コロナ禍の中、工事は大幅に遅れてしまい、また私たちのインド訪問も4回の予定が最後の1回のみの実現となりました。しかし8カ所の居留地で行なった今回の事業は、この12月で殆ど終了します。これまで細々と続けてきたチベット難民支援の事業は、こうした形で大きく飛躍することができました。

まとめ

前から水が届かず毎日近所からもらい水をしていたとのこと。そして高齢になり水が重くて難渋していたところに、今回新たな水道管が敷設され、自宅の蛇口から水が出るようになり、本当に大助かりでぜひ一言お礼をとのことでした。こんなことがあると、私たちもまた元気をもらいます。

桃太郎がやって来た

(チベット出版事業)

事務局長 久家誠司



当会作成の本を読む児童

当会では長年、チベット語での本を出版する支援を続けています。これはチベットの人々がインドでの難民生活が長引く中で、チベット人としてのアイデンティティが失われていく事を防ぐという観点からです。一時必要性に迫られ、英語教育に力が入られる時期がありました。しかし低学年から英語教育をすることにより、逆にチベット語の衰退が危惧されたのです。

さて、チベット語の本は毎年3〜4種類、それぞれ3,000冊あまりが印刷され、学校を中心に各居留地に配布しています。内容はチベットの歴史はもちろん、チベットオリジナルの物語、生活の仕方、副読本、辞書や図鑑といったものです。

ある時、ARTICの事務局スタッフから、日本のおとぎ話(絵本)を翻訳したものを出版してはどうかとの提案がなされました。本来の出版事業の意図とは多少異なりますが、日本の絵本は道徳的な人格形成を手助けする素晴らしいものが多く有り、子どもの時に他の世界観を知る事で、人としての幅も広がるのではないか、ということでもとまりました。

さて、実際に日本のおとぎ話をチベット語で出版するととても大きな反響がありました。初めて触れる新たな世界観はチベットの子どもたちにとってとても興味深く印象的だったようです。

先月インドに渡り、ダラムサラにあるチベット亡命政府(通称CTA)の教育省の出版部門を訪れ、担当のテンジン・ペマさんと懇談致しました(事業モニタリング)。

テンジンさんは、毎年の出版のお礼と、書籍がインドにある約60校のチベット難民学校へ間違いなく配布されていることを報告してくれました。また、絵本は人気があるのでニューデリーのチベットタウンなどにて安価で販売されていて、収益は出版事業に還元されている旨を報告してくれました。

これまでトータルで70冊以上出版されたチベット語書籍のうち、7点が日本のおとぎ話を翻訳したものです(桃太郎、金太郎、花咲かじいさん、鶴の恩返し、うらしま太郎、一寸法師、かちかち山)。嬉しい事には、これらがチベットの子どもたちに大人気であると、彼女は嬉々として報告してくれました。「今では

チベット難民の子どもで桃太郎や金太郎を知らない子はいない」とまで話してくれました。これはとても感動的なことなので、聞き取り調査だけでなくレポートを書いて頂くように頼みましただころ、早速以下のレポートが送られてきました。ご覧いただければと思います。

ちなみに、おとぎ話の日本語翻訳はダライ・ラマ法王日本代表部事務所(チベット・ハウス・ジャパン)の代表であるT.G. Arya氏(通称アリヤさん)によるものです。

以下テンジン・ペマさんのレポートから抜粋

チベットの子どもたちから愛を込めて

今では桃太郎や金太郎などの日本の昔話の登場人物は、多くのチベット難民学校の子どもたちに親しまれ、愛されています。チベットの子どもたち、そして親たちはこの絵本を通して日本の文化にも親しむことができている。さらに、これらの翻訳絵本の利点は、すべてが倫理に基づいた物語であり、チベットの子どもたちは日本と共通の仏教文化のおかげで、このような物語の内容に容易に共感することができるといふことです。以前、4歳の私の娘がCTAスタッフ宿舎の近くにいる野良犬に餌やりをしていた時に、「この間読んだ絵本に出てくるような犬がいたらいいの」と言っていました。それは花咲かじいさんの話のことでした。娘はこの物語が大好きで、よく私に声を出して読んでくれとせがみます。文字が読めなくても、今では絵を見て自分で語ることさえできるようになっています。

改めまして、私たちがチベット語の絵本を出版するにあたり、長年多大なご支援をいただいているARTICに對して深く感謝しています。この20年間、ARTICの支援により、71作もの絵本や図鑑などを出版することができました。その中には、7種類の日本の民話を翻訳したものが含まれていますが、ARTICからのご支援により、これらの絵本をインドとネパールのすべてのチベット人学校に無料で配布することができています。今後もARTICからの継続的な支援を得て、毎年の出版物を継続していくとともに、倫理観に基づいた日本の子ども向けアニメをチベット語で制作できればと考えています。

私たちがチベット難民を取り巻く状況は決して楽観的なものではありませんが、そんな中でもARTICの出版事業支援はチベット社会の一筋の光明となっています。心からお礼申し上げます。



出版事業担当のテンジン・ペマさん(左)と久家事務局長(チベット亡命政府教育省にて)

今後もこの「チベット出版事業」は未永く続けていきたいと考えております。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

研修センターでの 田植えと稲刈りの様子

ヤンゴン所長 平野幸幸

ミャンマーの人材育成研修センターでは、田んぼを保持しており、職員全員で管理を行っています。今回は、今年の6月に行った田植えと10月に行った稲刈りの様子をお伝え致します。

田植え

去る6月29日、人材育成研修センターの田んぼで田植えを行いました。センターの田んぼでは昨年からもち米を植えていましたが、昨年は田植えのため、の労働者を雇っての作業だったため、スタッフ全員での田植えは今年が初めてでした。新しく来た日本人スタッフの工藤も初めて田んぼに入り泥だらけになっていました。

研修所で田植えを行うことはスタッフ研修の一環でもあり、日頃別々の担当で仕事をしている職員と一緒に同じことに取り組み、ARTICとしての連帯感を高めチーム意識を醸成する意味もあります。

また、苗を植えるには一番適した時期というものがあり、雨が降らないと田植えはできません。作物には毎年この時期に植えないと収穫できないとい

う適時があり、それを逸するとその年は食べられないのです。現代ではお金があればいつでも好きな時に欲しい物が手に入りますが、それは本当に幸せなこと

うか？私はミャンマーに来てその時期しか味わえない自然のきのこのを食べる時に豊かさを実感します。田植え作業は、私たち人間も大自然の中の一員に過ぎず、自然の摂理



田植えの様子

稲刈り

の中で生かされていることを学ぶ一日でもあります。

去る10月15日、人材育成研修センターの田んぼで稲刈りを行いました。朝4時30分よりヤンゴン事務所の2台の車に分乗し、職員全員で研修所に向いました。残念なことに今年の稲の出来は昨年よりも不作でした。コロナ禍で職員が一人減り十分な管理が難しかったことや、長雨で稲が倒れ予定より2週間ほど早く収穫しなければならなかったことが原因として考えられます。収量はあまり見込めませんが、粘り気のないミャンマー米を美味しく食べるには、この自家製のもち米をブレンドすると日本米のような艶と粘りが出ます。

稲作作業は、普段事務所でパソコン仕事をし、重労働の経験がない職員の心身の鍛錬や共に汗を流すことによって親睦を図る目的もありましたが、この目的は無事に達成されました。田植え時にはいなかった女子職員モナリザも最後まで頑張り、今後も皆で力を合わせ、ARTIC家族として共に活動していきます。



稲作作業を行う職員たち



稲刈りの様子。現地スタッフは日焼け防止の天然の化粧品、タナカを顔に塗っています。

未来を創る先生たち

ミャンマー現地駐在員 工藤絢花



2020年12月から、ヤンゴン事務所の職員としてARTICに加わりました、工藤絢花と申します。

日本では当たり前のようにある平和。子どもが学校に行き、大人は仕事をする。休みには好きなことに時間を費やし、家族や友人と時間を過ごす。私にとって『当たり前』だと思っていたことが、海外に出て、どれだけ恵まれていることに気づいた時はとても衝撃的でした。世界には紛争をしている国や地域があり、子どもが武力衝突に兵士として参加をしていること、勉強したくても学校に行くことができない子どもたちがいることを知った私は、私にも何か貢献できるはずと思い立ち、この国際協力の世界に飛び込みました。私は人々が命を脅かされることなく、尊厳を持ち、成長していけるような平和な社会を築くためには、教育が何より大切だと考えています。『与える側』と『もらう側』という一時的な支援をするのではなく、ARTICが行っているような『人々が自立できるための手助け』は一人一人の成長に重きを置きます。私もその一員として働けることをとても嬉しく思っています。どうぞ宜しくお願い致します。

ミンガラバー！

皆様こんにちは、人材育成センターから工藤がお送り致します。

12月11日（土曜日）、ミャンマーに来て初めての行事がありました。

本日は当日の様子をお送り致します♪



行事当日の様子

今回の行事は二部構成で、前半は読書感想文コンクールの表彰式、後半はARTIC Teacher's Academy(アルティック・ティーチャーズ・アカデミー 以下、ATAとする)の発足式を行いました。

読書感想文コンクールは、パナソニック株式会社及びPHP研究所と協働し、パナソニックの創業者『松下幸之助』の自叙伝である『松下幸之助物語』を題材に、当会の図書館運動の一部として行いました。例年は、学生向けの読書感想文コンクールを実施していましたが、去年は新型コロナウイルスの影響で学校が閉まっていたため、先生を対象に実施しました。

当日は、イラワジ管区各地から総勢56名もの先生方と教育関係者が当会の研修センターにられました。

9時から受付開始。の予定でしたが、先生方は8時半頃に集まってこられました。

ミャンマーの先生たちは、日本と違い制服(白いシャツまたはブラウスと緑のロンジー)があるので、先生方が勢ぞろいすると統一感があり壮観です。



会場全体の様子

10時、時間通りに開始しました。当会プロジェクトディレクターの平野が開会の辞を行いました。先生たちは話を真剣に聞き、自分たちが今日ここにきた理由を改めて感じていました。



読書感想文コンクールは、ARTICが2013年から協働している学校(以下、ARTIC家族校)や教師人材育成研修プログラム(以下、HRDP研修)に参加した先生方から90名の先生がコンクールに参加し、10名の方々

がパナソニック賞、PHP賞、ARTIC賞などを受賞しました。今後、更に教員として精進されることを願って、副賞としてタブレット、ソーラーランタン、時計なども授与されました。



表彰式の様子

そして、賞を受賞した先生の1人に自ら書いた感想文を朗読してもらい、『松下幸之助物語』からの学びを会場の全体で共有しました。

先生たちは『松下幸之助』の素直な心、熱意のある心、諦めない心の重要さを学び、個人個人の生活、そして学校発展にこの学びを反映させ、ミャンマーの教育改善に取り組むと宣言していました。



休憩をはさみ、後半の部です。ATAの発足式を引き続き行いました。

ATAは当会が行っているHRDP研修に参加した先生の卒業生からなる先生同士で行う研修を促すための仕組みであり、その仕組みを資金的にバックアップする基金です。これまでは、当会



ARTICと協働で建設中の図書館

彼はHRDPの卒業生ではありませんが、ARTIC家族校の一員です。コロナ禍で学校が閉まっていた間も自主的に図書館を開き、遠くに住む生徒たちが本を借りることができるように各村で生徒のネットワークを構築しました。困難は乗り越えることができるということ、生徒たちは彼の創造力と行動力から学んでいます。

1 Myo Hung 校 (ミョーハウン校) U Nay Myo Nain (ウーネ イミョーナイン)

が主体となって先生方へHRDP研修を行っていました。これからは卒業生の先生たちにもリーダーシップ、そしてイニシアチブを取ってもらい、HRDPで学んだことを主体的にほかの先生たちに伝える研修を各地で実施してもらいます。発足式では、ATAの意義や仕組みの説明後、ATAの目指すモデル教員として、現在積極的に活動をしている4名の先生方に学校での取り組みについて報告してもらいました。

2 Kyon Tar 校 (ジョントー校) Daw Lwin May Oo (ドール インメイウー)

HRDP第7期卒業生。ARTICと協働する前とした後の変化を説明してくれました。昔は遊具がなく、タイヤを再利用して作ったものしかなかったが、遊具が来てより多くの子どもたちが外で体を動かして遊べるようになったこと。清掃活動を村全体で行い、学校だけでなく村全体を巻き込み環境改善に努めていること。学校農園を取り入れ、子どもたちが自分の責任や役割を学ぶ機会を提供していることなど、様々なアイデアを取り入れ積極的に活動を行い、生徒たちのいいお手本となっています。



ARTICによる遊具設置事業

3 Thayet Kone Mayan Kone 校 (タイエツコン マヤン 校) U Swe Phyo Aung (ウ スエピョーアウン)

HRDP第7期卒業生。研修で作成

したアクシヨンプランを元に、ペットボトルのごみを集めて椅子をつくったり、ごみの種類について学んだり、子どもたちが清掃活動やリサイクル活動を実践を通して学べるよう工夫しています。先生たちの間でのディスカッションも取り入れ、協力体制強化にも努めています。



タイエツコンマヤンコン校での清掃活動

4 Shwe Boyay Kyaw 校 (シュ エボーイエージョー校) Daw Yee Mon Soe (ドイーモンソー)

HRDP第7期卒業生。初めはモチベーションが低く、学校活動が巧いかなんことを周りのせいにしていました。しかし、HRDPに参加し、環境を変えたければまずは自分から変わることを学び、自身の成長の可能性に気が付き、変わるための行動を取り始め、変化が目に見えてきたと話してくれました。現在は新しい教室と遊具、そして開発プロジェクトの浄水の販売にも力を入れ、先生の行動を通して、子どもたちに成功の方法を教育しています。



開発プロジェクトの浄水プロジェクト

4人の先生方のプレゼンテーションから、学校での積極的な活動、そして学校教育をより良いものにしたという意思がとても強く伝わってきました。環境を変えたければ、まず自分から変わる。これを実践できたからこそ彼らは周りも巻き込み、様々な活動をするのができたのだと思います。他の先生たちにとって、そして私を含むARTICのスタッフにとっても、とてもいい刺激だったと思います。一人ひとりが自分にできることをしっかり考え、周りと協力し、実際に行動に移す。これができるようになれば、あとは『今』に集中して前進あるのみです。コロナとクーデターにより前代未聞の困難が続いていますが、立ち止まってばかりいては前に進むことはできません。安全に配慮しながら、ミャンマー教育発展のためにできることから少しずつ前進しようという気持ちで式を終えました。

アジアの困難な状況にある子どもたちに『お年玉』を!

●●●●● 愛のお年玉募金 ●●●●●

6年前私たちの地元熊本は大きな震災に見舞われました。日本各地はもとより、世界の国々からも心配と慰めのお声掛けや緊急支援物資を数多く頂きました。人が困難な状況にある時に、他人からの思いやりがいかに心強く、ありがたいものであるかを身をもって知ることができました。

さて、途上国では日常が飢餓、難民、貧困、人権、教育など社会構造的な困難に溢れています。

皆様には毎年「お年玉募金」をお願いしています。これは恒常的に困難に喘ぐアジアの人々への幸せのおすそ分けと考えています。目的と金額は以下の通りです。

学校建設事業支援 (ミャンマー農村部)

この募金はミャンマーの貧困地域における、学校建設の資金や備品の整備のために使われます。教育環境を充実させることで、より多くの子どもたちに教育の機会を与えます。

一口：10,000円

本をプレゼント (チベット難民)

チベット地方(中国チベット自治区や、青海省、四川省など)からインドに逃れている難民の子どもたちにチベット語の物語や小説、副読本をプレゼント。

一口：5,000円 (5,000円でおよそ10冊の本を作成できます)

おまかせ募金

特に寄附金の用途を指定せず、当会に一任して頂ける場合の募金です。 **おいくらでも**

会の維持運営費

各種ボランティア活動を行うためには、現地への旅費交通費、現場との通信費、事務所の維持費(本部や現地)、現地スタッフの給与などが必要となります。このように活動を下支えするための重要な募金が維持会費です。

一口：年間 5,000円

ご寄附のお願い

れんげ国際ボランティア会はNGO(またはNPO)と呼ばれる民間の国際協力団体です。ODA(政府開発援助)とは異なり資金力はありません。しかし資金的には小規模であっても、本当に必要な人々に、心のこもった支援ができるよう努力を致しております。その努力が実り、活動に関しては、現地の人々からはもとより、外務省からも高い評価を頂いています(外務大臣表彰を受賞)。

今後もアジアの人々が日本に対して親近感を抱き、友好関係を築けるような有効な支援事業を続けてまいりたいと考えています。何卒、活動へのご理解を頂き、活動資金へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

■振込用紙は毎号お入れしています■

これは事務作業の手間を省くためと、「思い立ったときにいつでも振り込みできるように、いつも入れておいて欲しい」という要望があるためです。決して振り込みを強要するものではありません。恐れ入りますが、既にお振り込み頂いた方、ご不要の方はご処分をお願い致します。

第73号 2022(令和4年)1月

季刊／みろくの風(れんげ国際ボランティア会会報)

発行人／川原英照

住所／〒865-0065

熊本県玉名市築地2288

電話／0968(73)4851

◇各種お問い合わせ◇

(認定NPO法人)

れんげ国際ボランティア会

<http://renge.asia>

e-mail info@renge.asia [@renge.artic](https://www.facebook.com/renge.artic)